

平成 29 年度町政懇談会記録(要旨)

開催日 : 平成 29 年 9 月 23 日 (土)

開会 : 午後 1 時 00 分 閉会 : 午後 2 時 00 分

場所 : 笹尾西 2 丁目

参加者 : 男 9 人、女 3 人 計 12 人

町職員 : 町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、政策課員

○懇談

男性 (1) 農業の話ですが、ブルーベリーとぶどうはどこでやっているんですか。

町長 長深の元耕作放棄地です。耕作放棄地を農地に戻して、ぶどうについては、ハウスを建ててやっていますが、実は今年の 1 月の大雪でハウスがつぶれてしまいました。そのハウスは国の補助金が入っていて、補助金が入ったものをそのままにしておくわけにはいかないのです、町のお金で改めて建て替えました。

男性 (1) そういうことをしているというのを、私だけかもしれませんが、全然知らなかったのですが、おおやけに宣伝とかしているのでしょうか。

建設部参事 議会には報告しています。ただ面積的にまだ小さいですし、今ブルーベリーの苗木を 50 本植えています。ぶどうは 5 品種、2 本ずつ植えていたのですが、町長言いましたようにどさつとつぶれてしましまして、苗木にもダメージがありました。ぶどうは先日ようやく収穫できたところです。私達食べさせていただきましたが、糖度も高く非常においしいものができました。ただ、まだ数が非常に少ないものですから、これから増やしていこうと考えています。とりあえず、今年は町内の洋菓子屋さんに持っていき、来年から東員町で出来たブルーベリーやぶどうを使用した商品を販売していただくということを考えています。まだまだ数が少ないので皆さんの口に入るのはもう少し時間がかかりますが、ここらへんですと、アントニオさんで東員町で出来たブルーベリーやぶどうを使用した洋菓子が、来年にはご提供出来ると思いますので、その節はぜひご協力をお願いします。

男性 (2) 農業についてですが、ブルーベリーやぶどうの運営はどなたがやっているんですか。町がやっているのか、それともどっかに委託をしてやってもらっているんですか。

建設部参事 平成 26 年度から始めているんですが、町の職員で農業技術者はおりませんので、県の農業普及センターと O B の方のご指導を受けながら現在までやってきており、今

年ようやく収穫できたということでもあります。今後については、こういう成果ができたことで、町内の若手の農業者の方がやってみようかなということをおっしゃってみますし、やりたいという気持ちが伝わってきていますので、上手に引き継ぎながら拡大を出来ないかなというふうに思っています。また、拡大をしないと町が今までやってきたことが意味ないので、町内の様々な農地に取り組みを拡大していくということが狙いです。

男性（２） 拡大していくと人が必要になってくると思いますが、今後元気なシニアとかをボランティア等で募集するとかそういうことは考えていないんですか。

建設部参事 今のこの取り組みは儲かる農業を目指しています。今の水稻農業では収益が少なく若い農業者がなかなか出てこない。これを打開するために付加価値の高い農産物の栽培ということを考えていますので、儲かる農業ですので、それなりの雇用というものを考えておりますので、その時はどうかよろしくお願いします。

町長 ボランティアではなく、きちんと対価を払ってそこで働いていただくためのものという位置づけで考えていただきたいと思います。

男性（３） 水道の話ですが、我々は水がなくては生きていけないので、老朽化すれば変えなくてはいけないことは当然のことです。しかしながら、取り替えるということを大前提に考えれば出来るだけ早く住民に知らせて、住民の理解を得ないと難しいですから、出来るだけ早く知らせていただく。これは第一条件です。これは何にでもいえることだと思います。町として動きたいが、住民の意識がまだなかったとそういうことが結構多いんです。今日の議題とは外れますが、私に言わせるとごみの問題なんかそうなんです。ごみの処理は全く持って税金の無駄遣いだと思います。その辺の周知徹底を、役場が先頭に立ってしてもらわないといけない。先日広報で、ごみの処理に４億円くらいかかると書いてありました。こんな無駄なお金を、我々はなんとしてでも減らさないといけない。我々町民も考えなければならぬ。その意識改革をどうやっていくのかというのがこれからの課題なんだと思います。

これまで町もごみの減量ということでシンポジウムとか広報とか、回覧を回すとか色々やっていたと思いますが、講演会なんか見に行く人はみんな自主的なんですよ。興味があるから見に行くのであって、ごみを減らさなければならぬと、すでに自分で工夫して色々しているんです。ところが大半の人は自主的ではない。いつも思うんですが、自治会の集まりとかは、自主的ではなく義務的に来ているんです。そういった義務的に集まってきた人がいるところで、私らが要請すれば、町から誰かがごみの問題について５分でも１０分でも具体的にどうすればごみが減るとか説明してもらえれば、全然違ってくると思うんです。一つそういった班が出来れば、あそこはこうやってやっているんだから、真似してやってみようとなると思うんです。

ですから、これから要請があれば町の方が来てくれるという住民との交流が、これから最も大事になってくると思うんです。

町長 ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思いますので、ぜひその機会をつくっていただければと思います。出前講座というものがあまして、人数条件はありますが要請を受ければ職員がお伺いするという制度です。今の例でいいますと、ごみの話をして欲しいということであれば、担当の職員がそのお話をさせていただきます。また、ふれあいトークという制度もありまして、これは要請があれば職員ではなくて、私がお邪魔してお話をさせていただくものになります。ぜひこういった制度をご利用していただければと思います。

男性（3） もう一つごみの関係で。ごみ袋が値上がりするということが決まっていますが、私個人としてはごみ袋の色が変わるといっただけで、東員町の袋は東員町の袋なんですよ。

町長 今度の袋は東員町、桑名市、木曾岬町で一緒の袋を使用させていただきます。

男性（3） 東員町とか桑名市とか書いてないんですか。

町長 統一と聞いているんですが、現物はまだ見ていないんです。3市町が全く同じ袋で同じ値段になるはずですよ。

男性（3） それから、今の袋は今年いっぱいまでしか使えないわけですよ。この前回覧がまわってきたんですが、買い上げるというようなことが書いてありました。

町長 買い上げるのではなくて、差額を払ってもらって交換するというものです。

男性（3） それでも余る分は町が引き取るのか、清掃に使うのか。たくさん買った人から不満の声が出ていると聞いたんですが。

町長 そういう声も加味して、この度袋を交換するという事にしました。

男性（3） 私は、たくさんあるなら無くなるまで使わせてもらえればいいと思うんです。

町長 最初はそういう予定できたのですが、色々なお声をいただいて協議した結果、20枚あれば交換すればいいのではないかと。ただ、袋が高くなりますので差額分はお支払いいただくというかたちになりました。

男性（3） 得するとか損するとか色んな声がありますが、要は袋を無駄にしないようにした方が

いいんじゃないかと私個人は思うわけです。

それと、道路のことなんです、ごみの焼却場のところ、多度方面の道路がすごく大きくなっています。逆方面への道は、反対にすごく狭くてうねっているでしょう。雪の日なんか溝が分からなくなって、車のはまって立ち往生していました。あれは東員町の道ではないんですかね。なんとかならんですかね。

町長 同様のお声はいただいているんですが、あそこは桑名市で、さらに県道ですので東員町ではどうにもならないんですよ。

上下水道課長 すいません、ごみの関係で訂正があります。今担当に電話で確認したんですが、ごみ袋には各市町の名前が印刷されるそうです。東員町とか桑名市とか。

町長 桑名広域清掃事業組合で、まとめて作ってまとめて販売するという話だったと思っていたんですが・・・。

男性（４） 今度桑名広域清掃事業組合の説明会があるかと思うんですが、そこで町からも言ってもらえればと思います。

男性（５） 生ごみのことですが、生ごみの水分が多く燃やすのに燃料代がかかるということを知って、協力したいと思い、生ごみリサイクルの容器を買って、今ではほとんど生ごみは出なくなりました。今度新しくなる焼却施設では、技術革新が進んでそんなことしなくても値段はいっしょだという話を聞いたんですが、今までどおり生ごみは少ないほうがいいですよ。

町長 今はごみをRDFという固形燃料にするのに一手間、それからそれを燃やすのにもう一手間と２段階の手間がかかっているんです。それが、機械が最新式のものになり、ごみをそのまま燃やせばいいということで手間が減ります。よって従来と比べてコストは下がりますが、先ほどおっしゃられたように、ごみを燃やすのにお金がかかるので、水分を出来るだけとばせばそこから更にコストは下がりますので、これまでどおり出来るだけ水分をとばしていただきたいと思います。

男性（５） これまでどおり水分をとばすことに意義はあるんですね。

町長 もちろんです。これからもよろしくお願いします。

男性（６） 水道の話なんです、資料に書いてある料金というのは上下水道あわせた料金なんですか。

上下水道課長 これは上水道だけの金額です。

男性（6） こういった施設や管の償却年数（減価償却）を含んだコスト計算なんかはしていないんですか。

上下水道課長 下水道は特別会計でやっていますが、上水道は企業会計でやっていますので、当然減価償却もやっております。ですので、税金は入っておらず、全て使用者の方の使用料で行われています。減価償却していますので、当然内部留保資金もあります。今7億円弱ありますが、それを含めたかたちでシミュレーションをしたものをお示しさせていただいております。もしこのまま料金改定しなければ、平成41年に内部留保資金は底をつきます。今の東員町の規模でいくと、内部留保資金が3億円くらいないと災害時に対応出来ません。そういったことを含めてシミュレーションしています。

女性（1） 給食センターなんですけど、町から業者にかわりましたよね。子ども達に聞くとおいしくなくなったというんですね。企業も儲けがいきますからしょうがないと思うんですけど、給食費も変わらないですからできたら町に戻してもらって、町の農産物とかを使用してもらい、おいしい給食を子ども達に食べさせてあげられればなと思います。

町長 今委託しているのは調理だけなんです。材料を買うのは町でやっています。町内産の物、特に米なんかはもっと使えないかとよく言われるんですが、使用してる米の種類があって、その量が少ないらしいんです。それで、農協から購入しているんですが、農協もそこらへんは配慮していただいている、8割上は東員町の米を供給しているというふうに聞いています。野菜なんかは、1年通して供給できるかというところ、そんな供給体制はないんです。東員町の農地は上手く動いていないので、これから1つでも2つでも、町内でできた野菜を提供できるようなそんな農業にしていきたいと思っています。

男性（7） 町の農家の方は米ばかりです。何町も持っていたらそりゃ専門農家で儲かるでしょうけど、今それが出来ないのは、一つは高齢化の問題で、自分も畑をやっていましたが、結構手間かかるんですよ。だから高齢化が進んでいて現状では難しい。それから売り先がないとダメなんですよ。売るところを最初に作らないとどんな産業も成り立たないんですよ。いなべ市なんかは直売所とかいくつかあると思うんですが東員町ははっきり言ってゼロに近い。そういったところを町として仕掛けてもらわないことには産業として成り立ちません。

建設部参事 もちろん作るだけではダメなので、出口の部分ということで、町内での直売所というのは非常に大きなウェイトを占めていると思いますので、このプロジェクトの中

で、町に1ヶ所、ないしは2ヶ所、人が集まりやすい場所につくることも考えていますので、またその節はご利用いただきますようお願いいたします。